



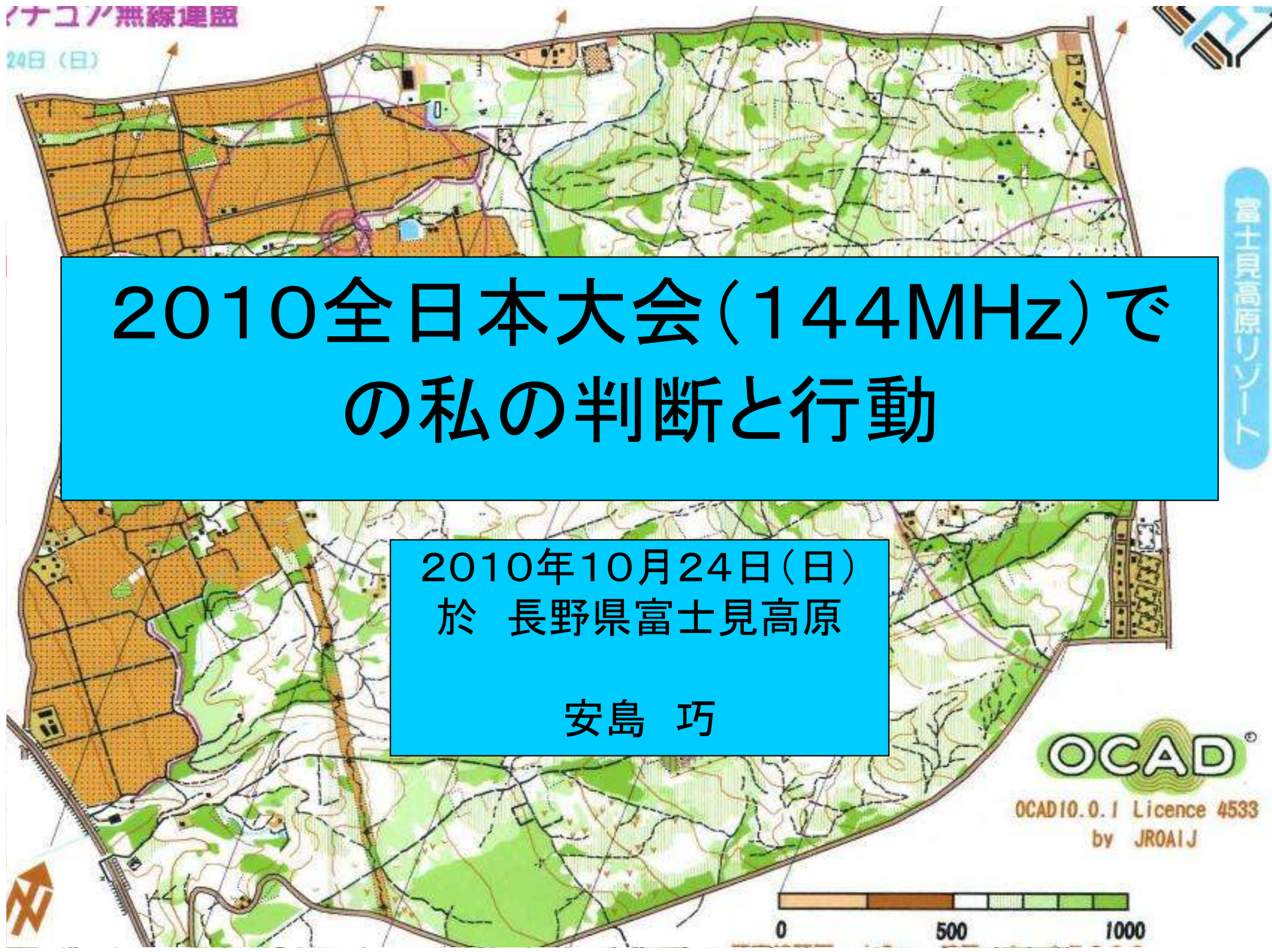
2010全日本大会(144MHz)での私の判断と行動

2010年10月24日(日)
於 長野県富士見高原

安島 巧



OCAD10.0.1 Licence 4533
by JROAIJ



初めに

このドキュメントは、ARDF競技に参加したときに、私がどういう場面でどういう判断をしたかを記憶を頼りに記録したものです。

従って、「こうすべき」という正解を記載したものではありません。

ARDFに参加した一競技者の話として、主に初心者の皆さんの役に立てられればと思って作成いたしました。

「あっ あれはなんだ！ UFO？ いやヘイローアンテナだ！」



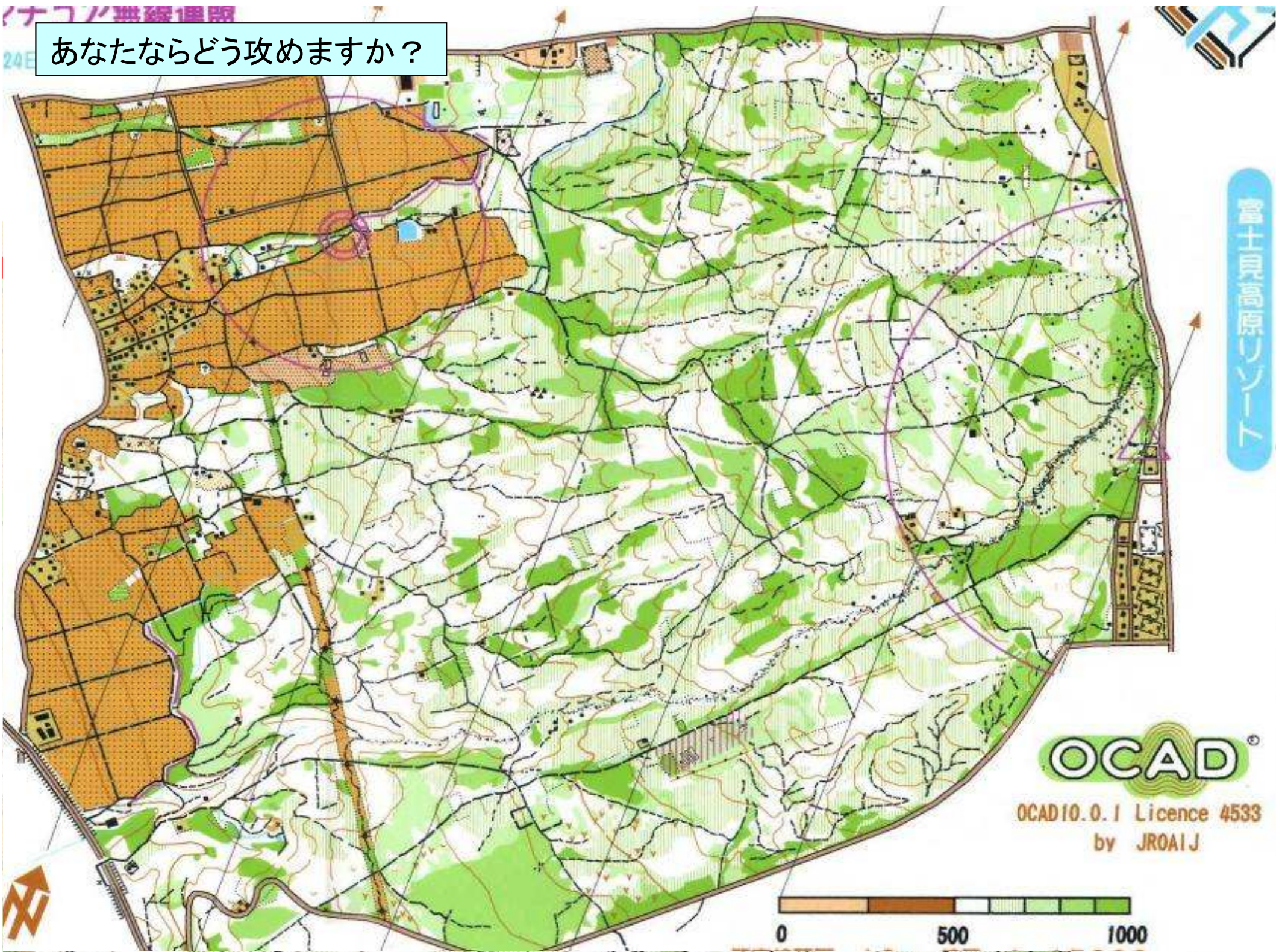
今回のアンテナは予告どおり「ヘイローアンテナ」を「高所に設置」という特徴があった。

スタート前の選手待機所で実際に試験設置されていた。

ヘイローアンテナはかなり小型でありながら通常のターンスタイルアンテナとほぼ同等の性能を出すものである。確かに少し離れると木々と同化して識別できない。ターンスタイルアンテナではフラッグよりアンテナを先に見つけることが時々あるが、ヘイローアンテナではそれは皆無であろう。

また高所設置ということで電波が強い。これも要注意ポイントだ。

あなたならどう攻めますか？

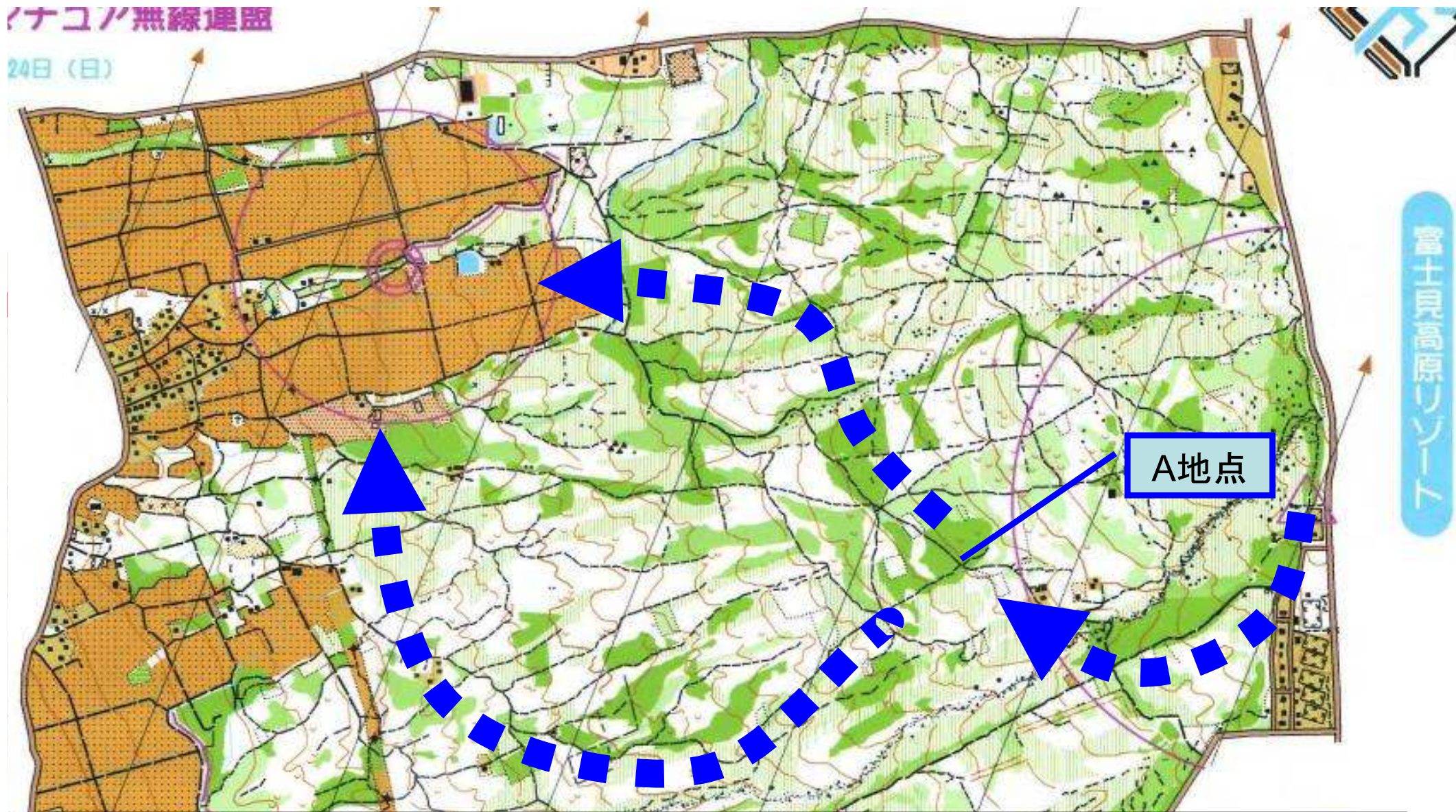


富士山麓の山

OCAD®

OCAD10.0.1 Licence 4533
by JROAIJ



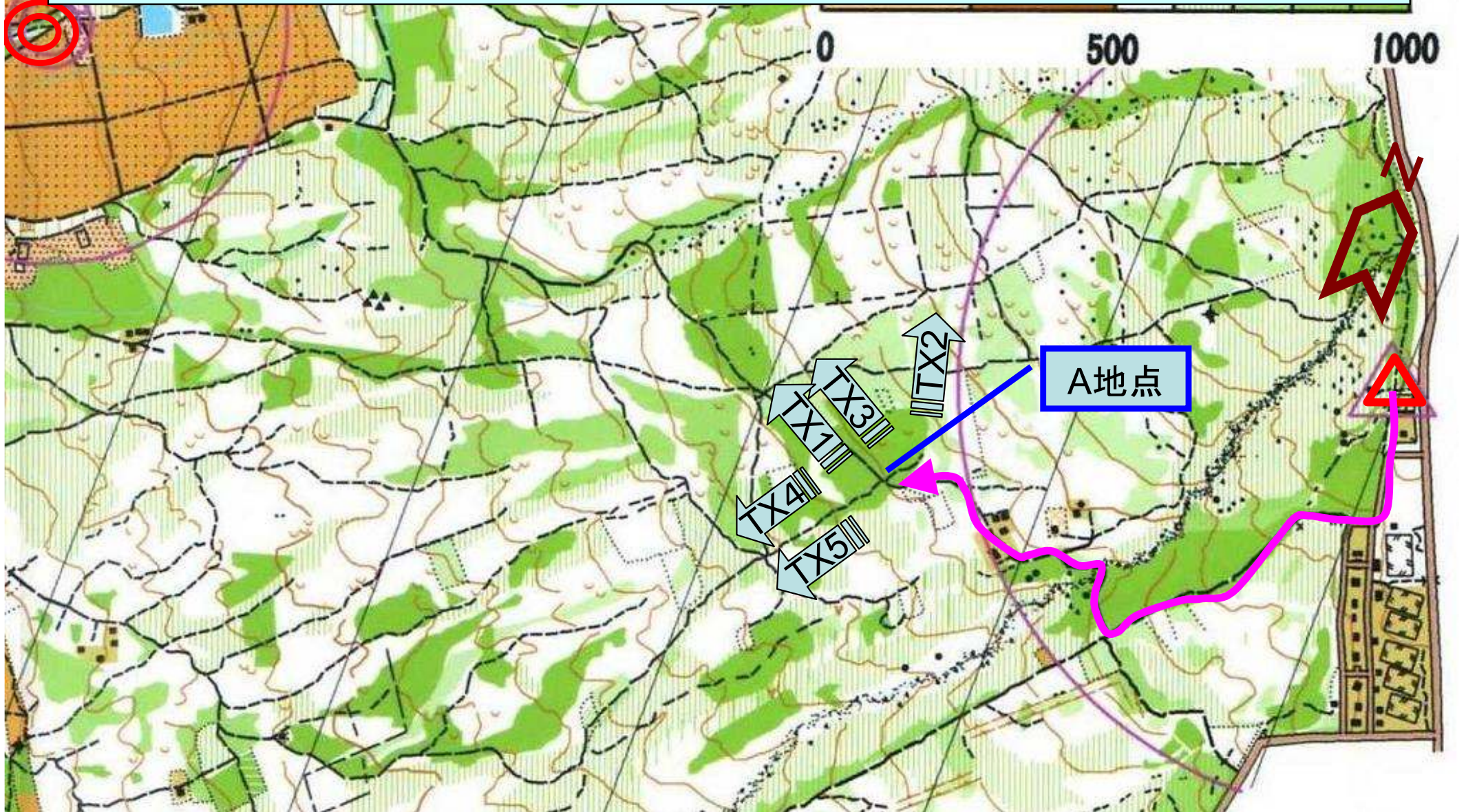


①スタート前の地図読み

スタートでクラスにより左右に分かれたあと、南西方向で山を下るという設定。しかもゴールは最下部ではない。また主催者より高圧線より下にはないというアナウンスがあったので、左右に分かれた競技者が合流できる標高と高圧線の間には全てのTXがあると推定。少なくともA地点までは進むべしと判断。

②A地点

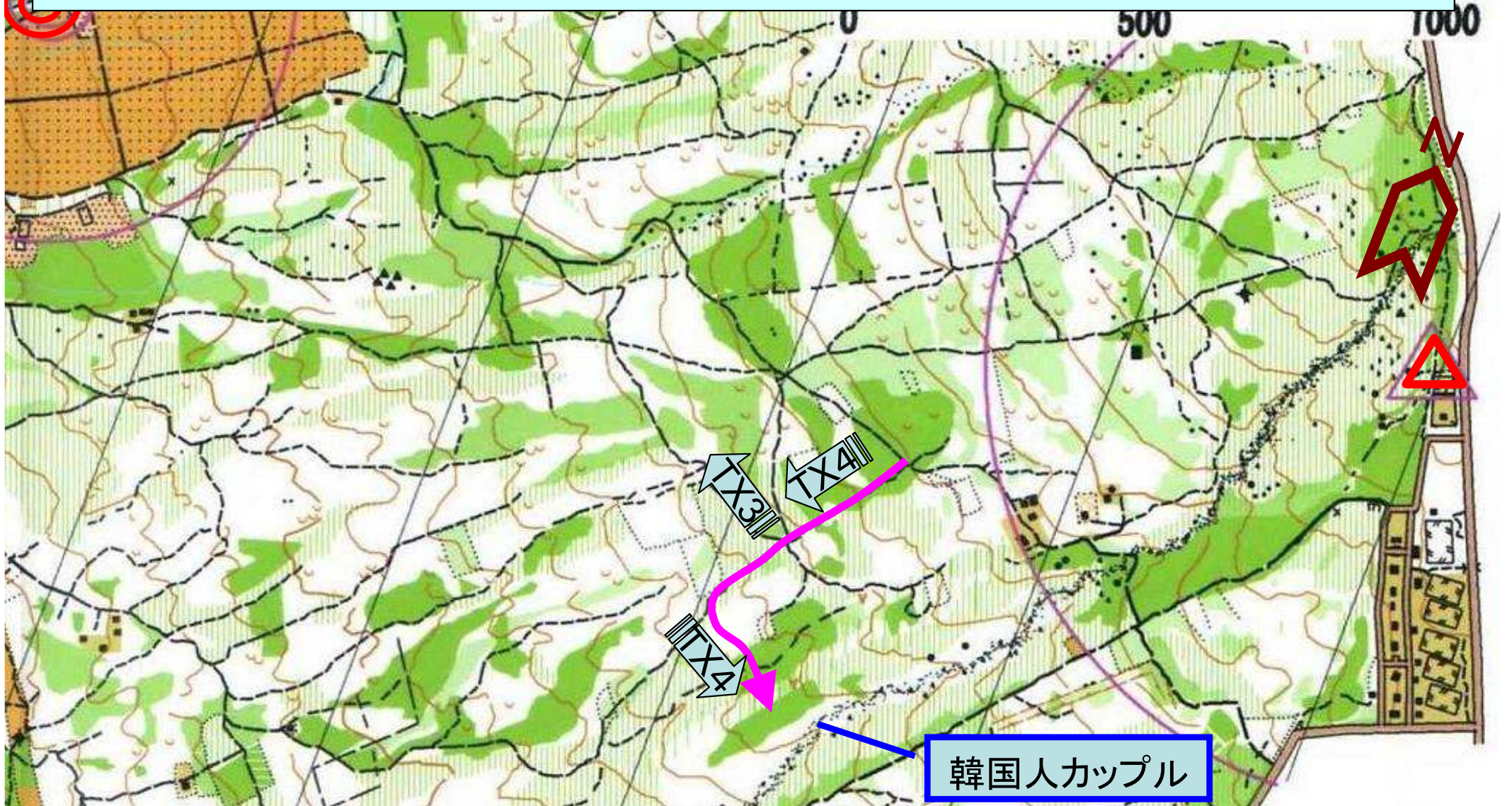
TX3,1がゴール方向にありTX3が強い。自分に不要なTX2は上の方だ。助かった。この時点でTX2は捨てる。TX4,5は道なりに下った方向でTX4のほうが強い。セオリーからすれば、TX3、1が第一ターゲットだが、ゴール方向ということと、TX4が一番強いのでTX4→TX3という探索順に決める。



③藪に入る

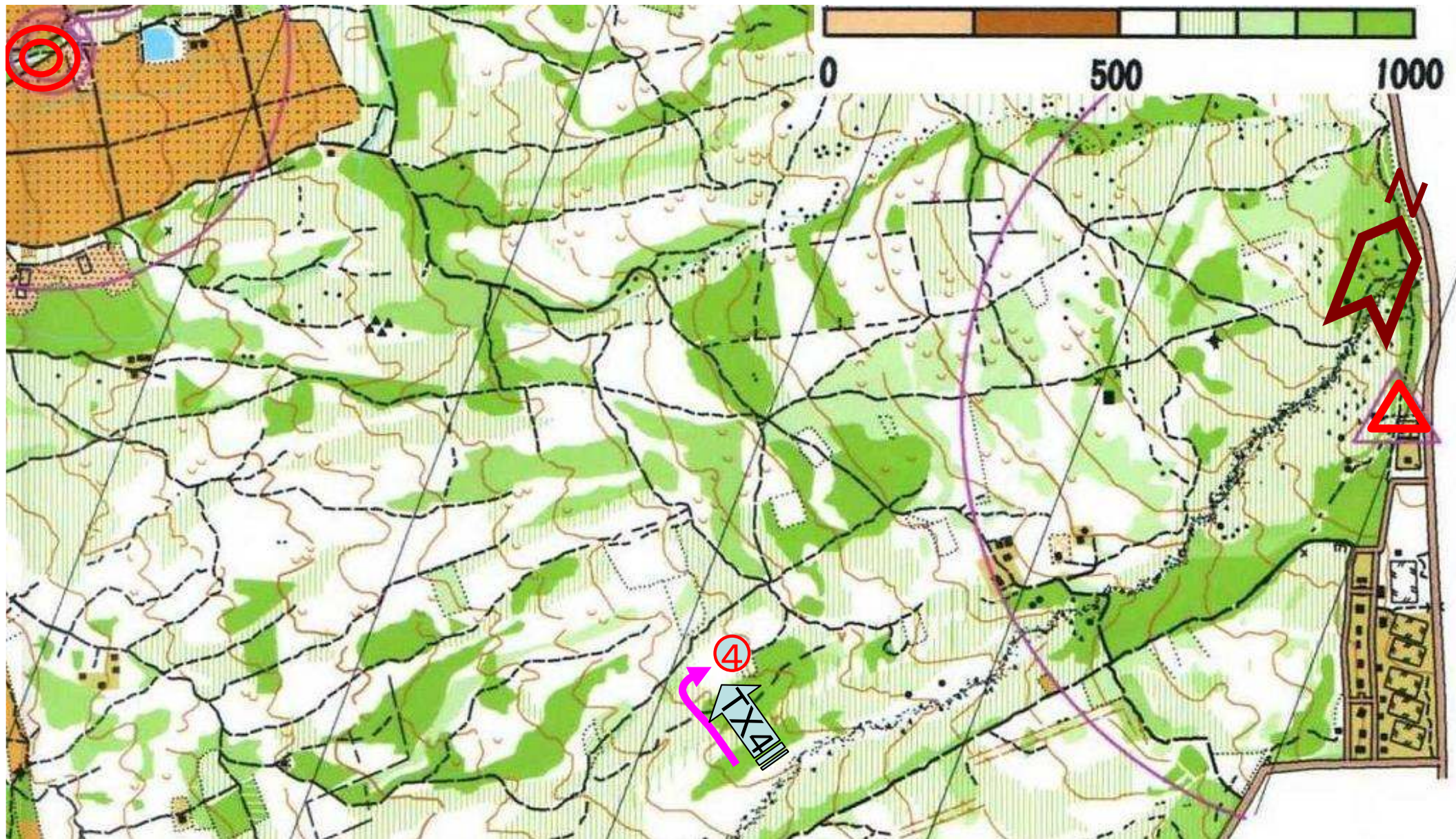
TX3への行く道を考えながらTX4を目指して道を下る。

いよいよTX4が道なりでなく左方向になった。しかも強い。意を決して藪に入る。くぼ地を望む場所に出てTX4鳴動時刻が近づいていたのでくぼ地に降りずにTX4を待つ。くぼ地から韓国人カップルが歩いて登ってくる。まるでハイキングだ。しかしこの人たちとんでもない方向から来たもんだ。



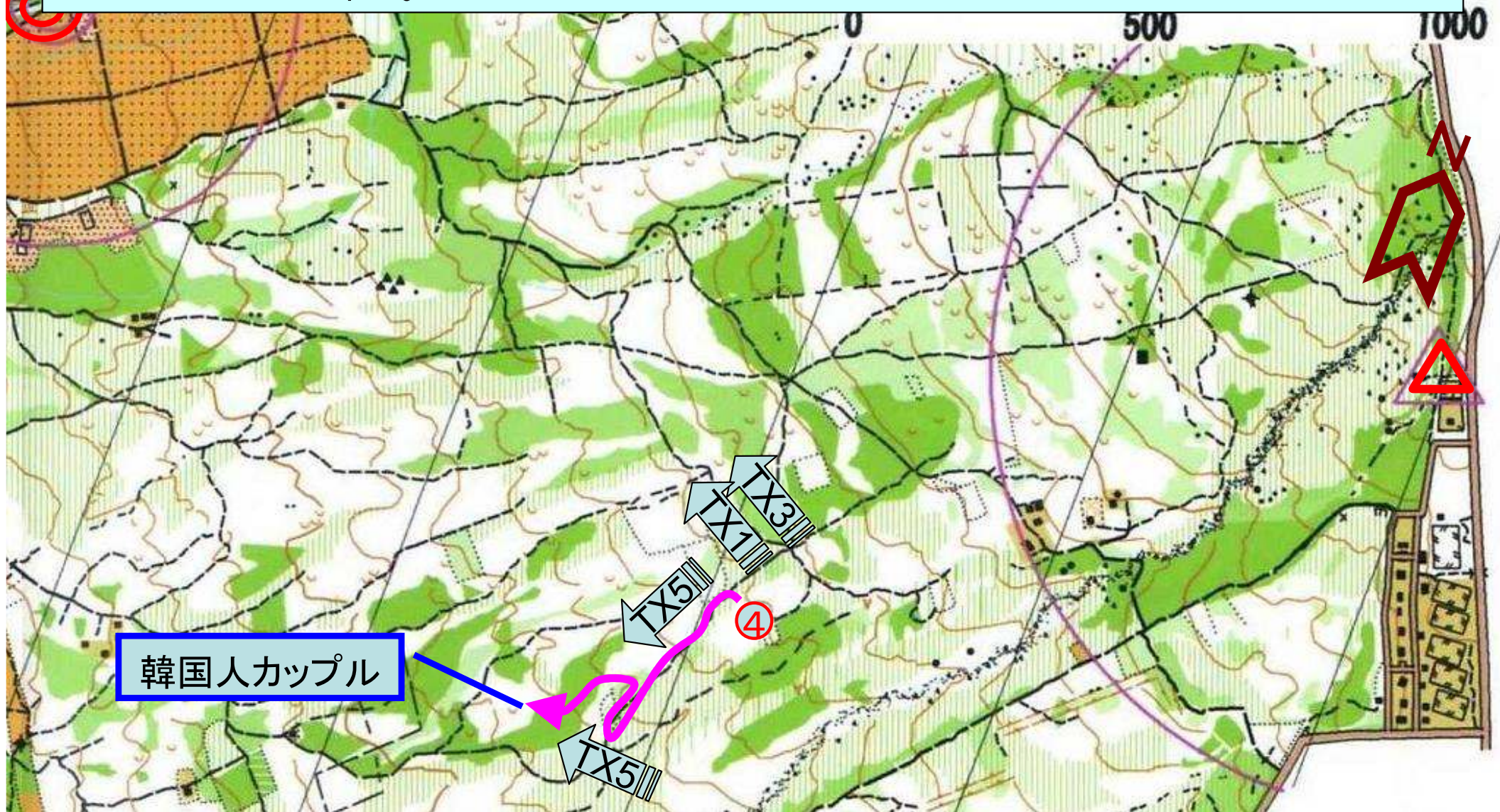
④TX4

TX4が鳴く。後ろだ。あわてて戻り始めるが反射の影響がある。近くなのに直接波を受けられないのが残念だ。別のくぼ地前に来た。停波。気が進まないがくぼ地に降りる。降りたところで右方向を見ると30mくらい先にフラッグが見えた。坂道を登ってTX4ゲット



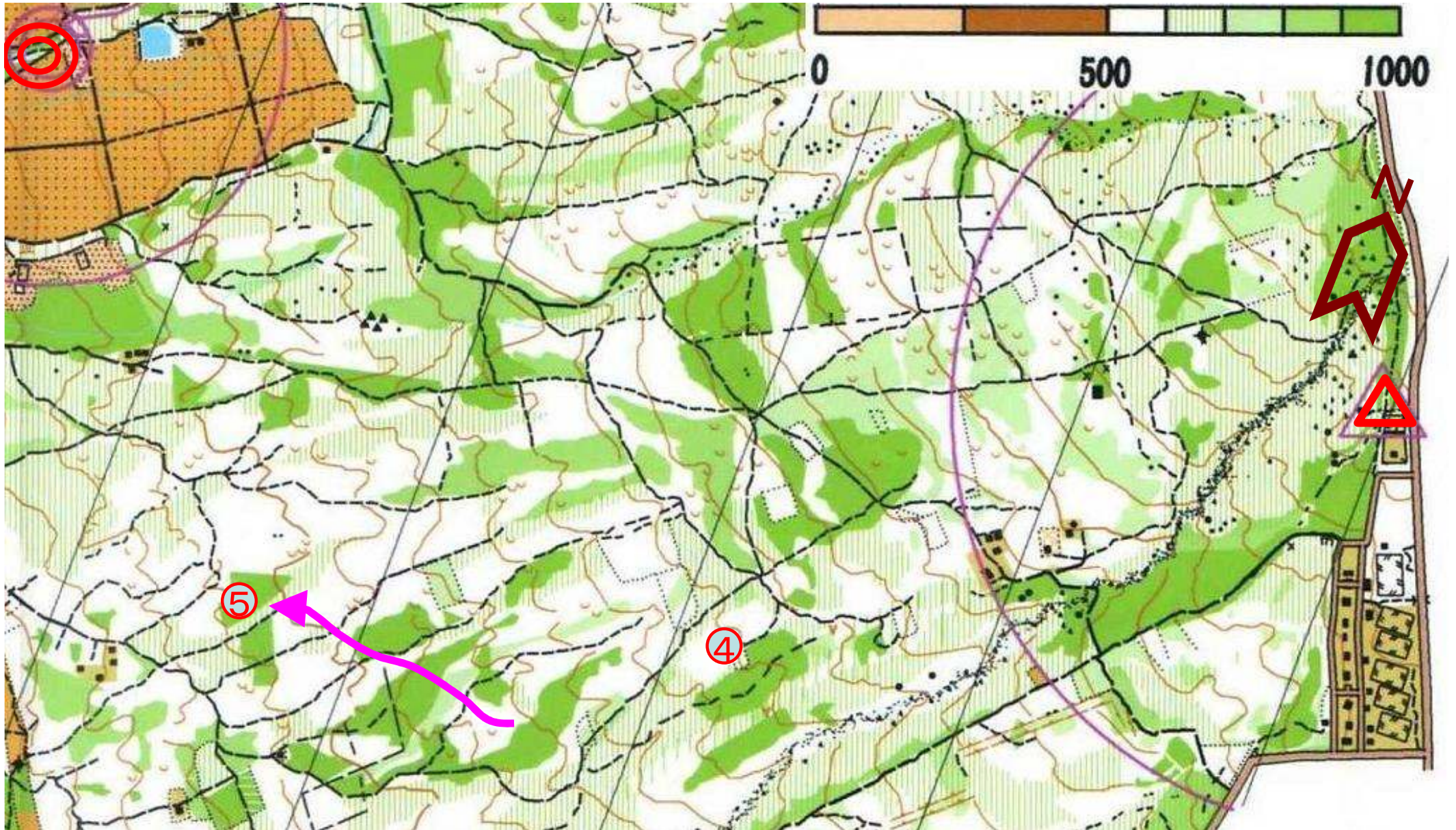
⑤TX5をターゲット

先ほどの道に戻る。TX3よりもさらに道なり下方向のTX5が強い。TX3,1はゴール方向と見たので、TX5を先に目指すことにする。下っていくとTX5が右方向となった。しかしその方向はヤバそうな藪だ。地図を見て少し戻って迂回することにする。進んでいくと例の韓国人カップルがいた。神出鬼没だ。ここからは昨日体験できなかったコンパスモード三昧だ。



⑥TX5

尾根。谷をいくつ横断したかわからない。ひたすら電波とコンパスを頼りに進む。完全に自分の位置をロストしている。TX5ゲット



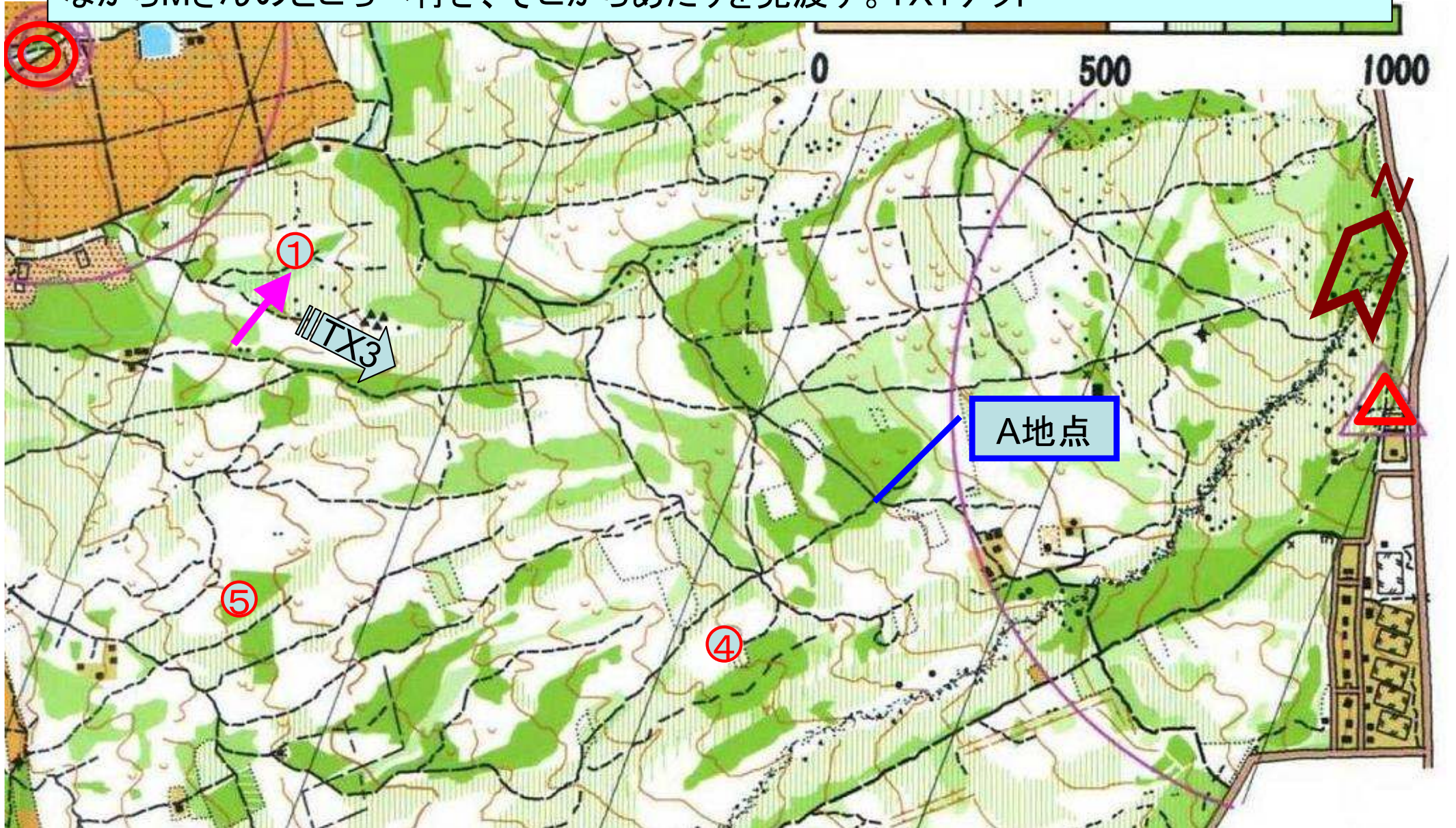
⑦さらにコンパスモード

TX1に向かおうと丘を下るとそこには松本ナンバーの1BOXカー。ゲットしたあとでは情報にならない。車が入れる道はどれかと地図を見るが、さっぱりわからない。高橋(富)さんに抜かれる。コンパスモードでさらに進むと小川にぶつかった。地図で小川を探すととんでもない位置だ。こんなところまで来たはずはないのに。ますます自分の位置がわからなくなる。(実はあとで地図を良くみるときわめて細かい青線が記載されていた)。方探の結果、小川の上流西側と判断し、小川を渡り上流へ向かう。



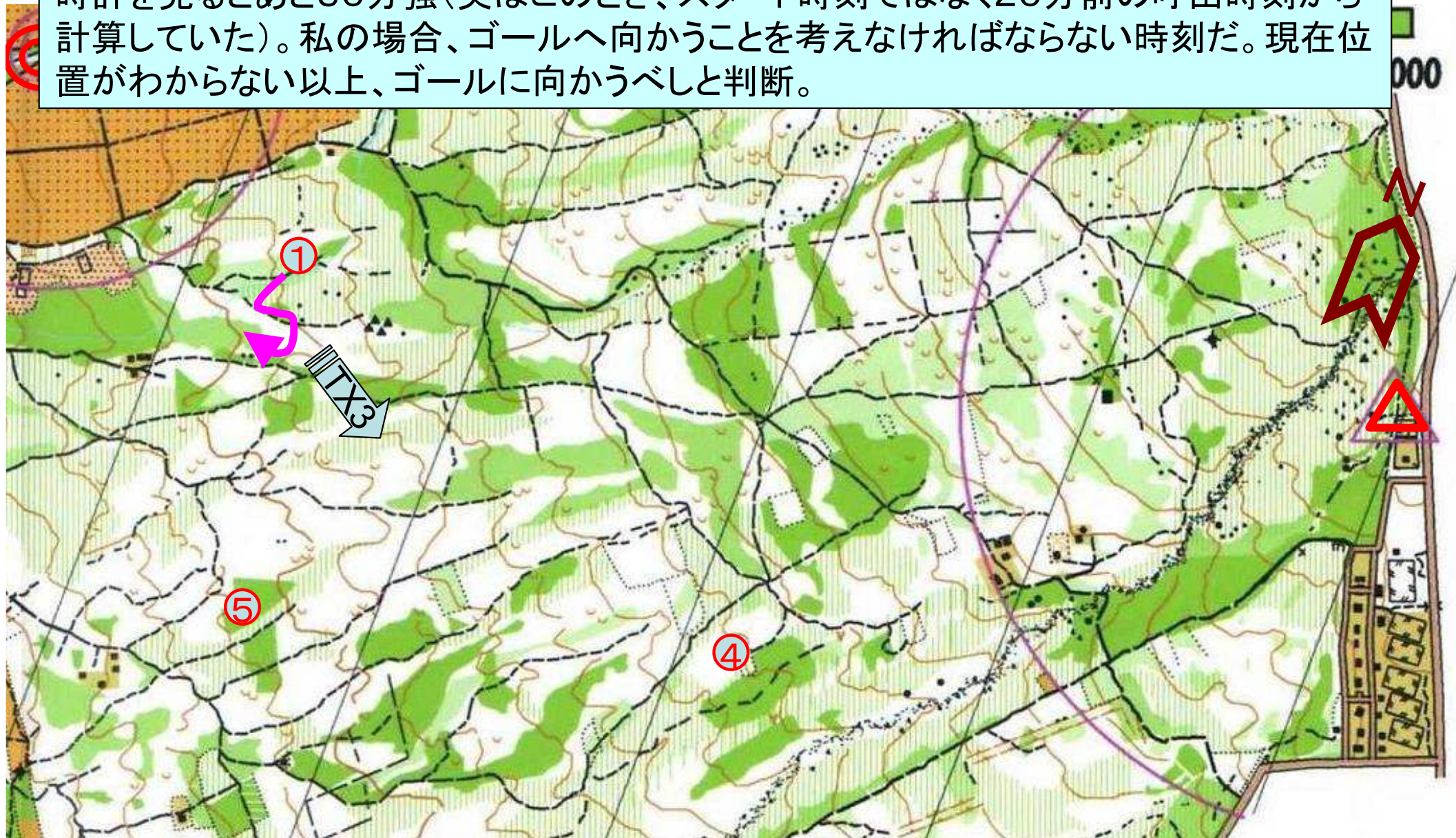
⑧TX1

TX3は東方向で弱い。最初のA交差点の位置での強度より弱い。残念だと思いつつ上流へ向かうと、左視界に白い影を発見。TX1担当のMさんだ。脇で競技者が2人ほど方探している。今度はだまされないぞと思い、「また審判員を先に見つけちゃった」と言いながらMさんのところへ行き、そこからあたりを見渡す。TX1ゲット



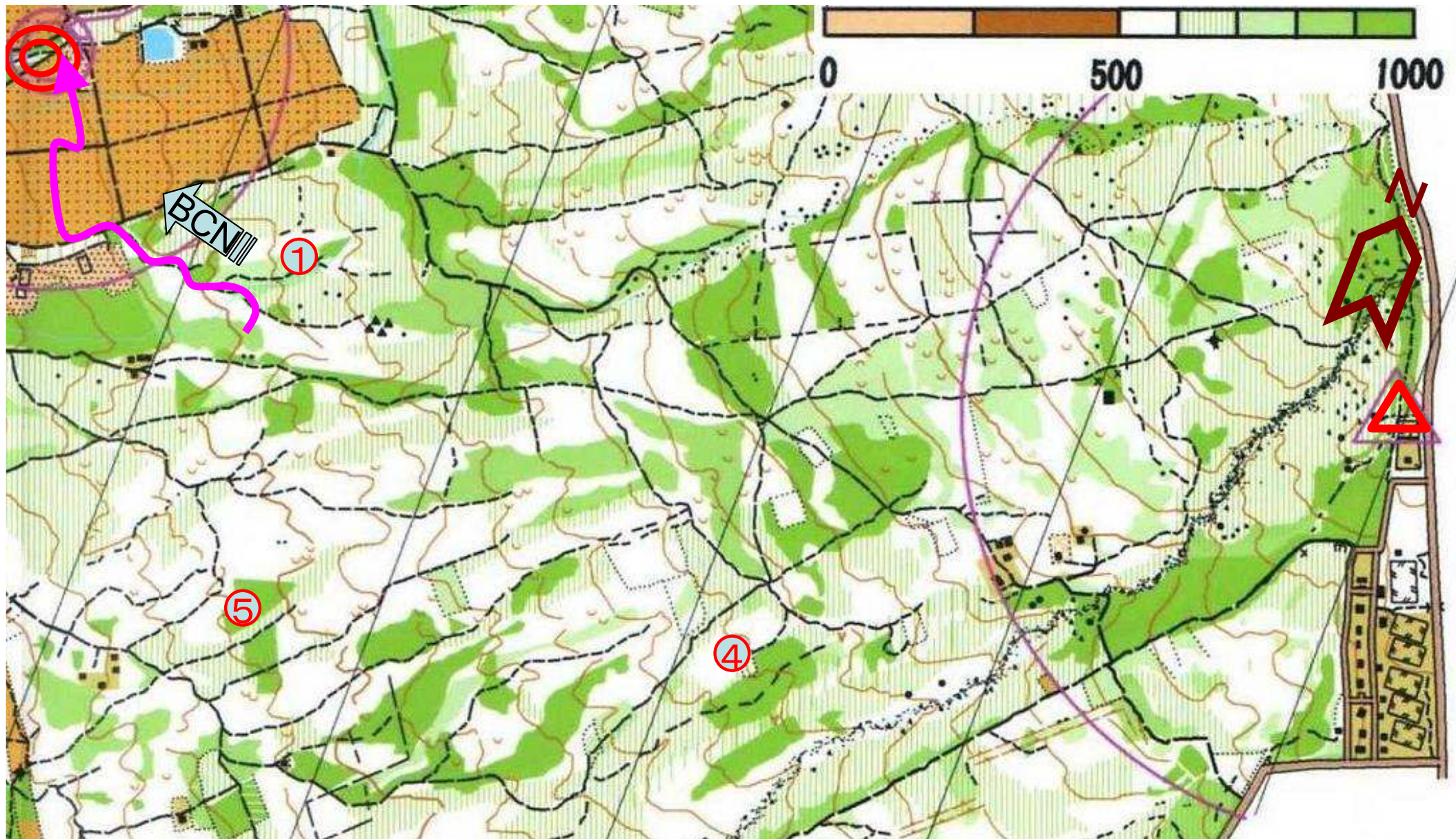
⑨TX3はどこだ

TX3は東方向だ(実は反射の影響で方向を間違えている)。現在位置をロストしているので、まっすぐと藪コギするしかない。方向が近そうな道も使いながら東へ向かう。TX3が鳴くがまだまだ遠そうであり、反射があり方向も不正確だ。これは時間がかかりそうだ。時計を見るとあと30分強(実はこのとき、スタート時刻ではなく20分前の呼出時刻から計算していた)。私の場合、ゴールへ向かうことを考えなければならない時刻だ。現在位置がわからない以上、ゴールに向かうべしと判断。



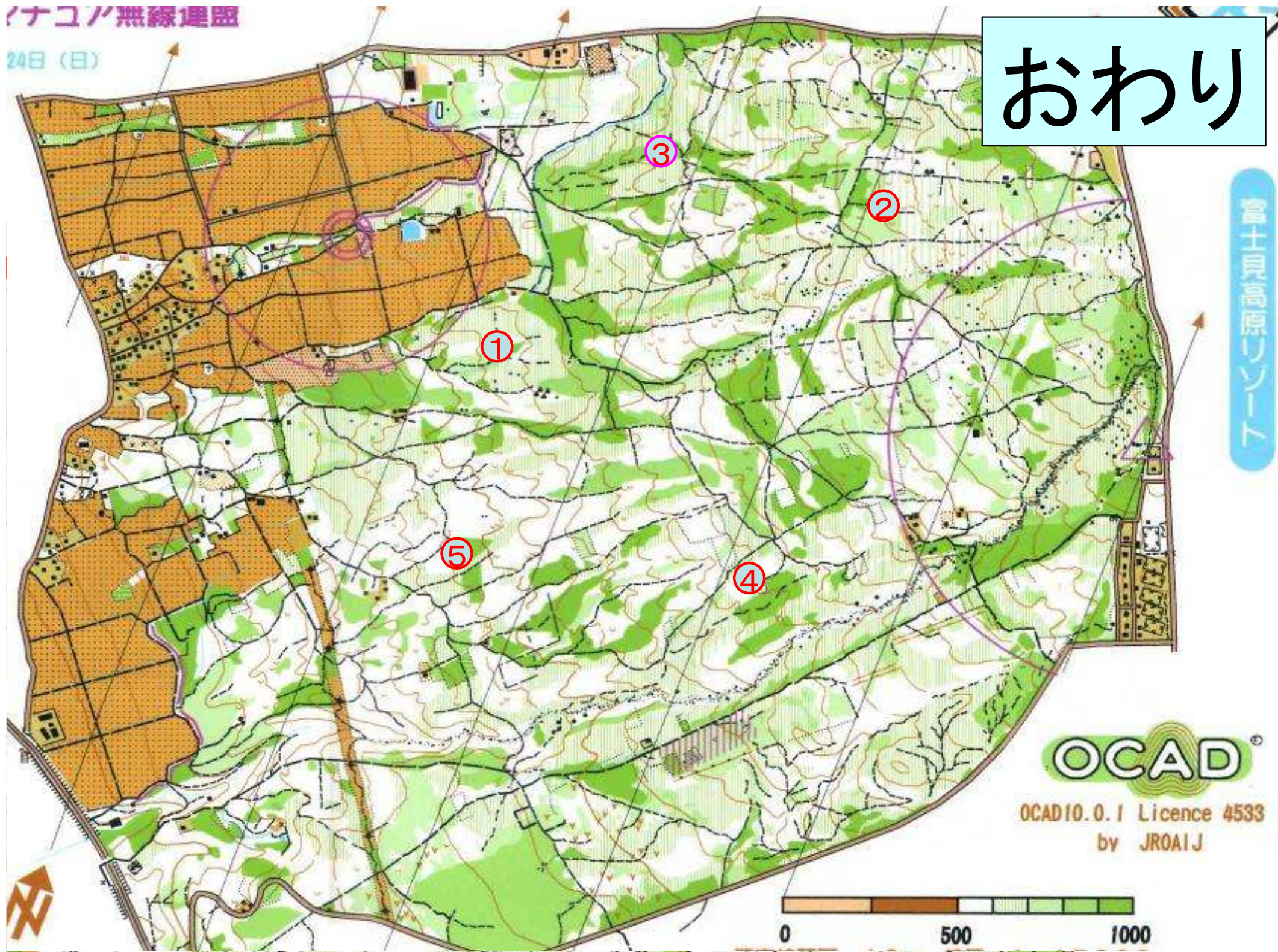
⑩ゴールへ

ビーコンを頼りに道を進む。通常は地図でゴールを目指すので、ビーコンを
しっかり聞く経験はなかなかない。見晴らしの良い場所に出てきて現在位置を
確認。ゴール



おわり

富士原地区センター



OCAD®

OCAD10.0.1 Licence 4533
by JROAIJ



反省

◇今回はコンパスモード探索三昧であった。国際大会はこのようなテレインが多いらしい。良い経験になったが、自分は地図盤にコンパスを貼り付けていたので使いにくかった。要工夫である。

◇コンパスモードになってから、自分の位置をフォローすることができなくなった。OL経験者はきちんと把握できていたのであろうか。自分にはとてもできない芸当と思える。

◇スタート呼出直前に指にSIがついていないことに気づいた。しかし、回りの人たちのすばやい協力・関係プレーで、無事にゲームに参加することができた。感謝・感謝である。3年前の全国大会でも、地図盤とコンパスを選手待機所に置いたまま、スタート地点へのバスにのってしまった。このときも気づいた人が後発バスで持ってきてくれた。私はまわりの人たちに相当世話になっている。感謝しても仕切れない。